

ネイパル農園

1, 趣 旨

地域住民及び近隣の方にネイパル森の農園での野菜作りを通し、自然に触れ合うことを目的に農園を開放する。

2, 期 日

平成26年5月17日(土)日帰り(農園開き)
5月18日(日)～10月25日(土)(作業)

3, 主 催・実施場所

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

4, 参加対象

仲間同士や家族など

5, 参加実績

過去利用者 11組 70名

6, プログラム内容

| | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|-------|----------------|---|-------------|------------------|----------------------------|------------------------|----|----|----|----|
| 5月17日 | 受付 (10:00~) | | 開 会 式 | 看 板 作 り | 山 野 荘 へ 移 動 | 解散(11:30) その後活動しても可 | | | | |

| | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|------------------|------------------|---|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 5月18日~ 10月25日 | 各自畑作業 8:30~17:30 | | | | | | | | | |

7, 活動の様子

本事業は、5月17日の農園開きから10月25日の閉園までの約半年間、参加者に農地を開放し、野菜作りを体験してもらうことをねらいとして毎年行っている。25年度からネイパル森近隣の山野荘の農園を開放し、地元の森町だけでなく、近隣の鹿部町、七飯町などから11組が農園を利用した。

農園開きでは、区割りされた畑に看板を設置し、耕うん機やくわを用いて畝作りを行い、野菜作りをスタートさせた。育てる野菜に合わせた土づくりから、肥料、資材を用いて農作業を楽しんでいた。



8, 参加者の声

(以下アンケートより抜粋)

- 農園開きから撤収作業まで一年間を通して、四季を感じながら利用することができた。
- 途中水撒き用のホースが短くなり不便を感じた。
- 畑の雑草の手入れが不十分な利用者もいたため、雑草が通路をふさいでしまった。
- 例年堆肥の用意があり、今年度については牛糞の堆肥がとてよかった。



○耕うん機を使えるようになったので、体も楽に作業することができた。

9, 事業の分析と考察

本事業は、「地域住民及び近隣の方にネイパル森の農園での野菜作りを通し、自然に触れ合うことを目的に農園を開放する。」となっている。25年度より農園の場所をネイパル森敷地内の農園から山野荘の農園も開放することにより、広域かつ同区画での継続利用も可能になったことから、農業知識をいかしながら畑作業ができるようになった。そのため、自然体験活動の充実を図ることができたと言える。

10, 成果と課題

○成果

- ・地元森町だけでなく、近隣からも申込みがあり、利用者数を増やすことができた。
- ・多種類の野菜を植えることができた。

○課題

- ・利用者間にトラブルが見られたこともあり、次年度に向けて広報時に利用に際してのマナー・片づけの表示を明確にすることが必要と考える。
(雑草の手入れ、撤収作業時に出た使用済みマルチなどの収集場所の指定)